



富士特だより

【めざす学校像】

児童生徒一人一人の自立を育てる

笑顔あふれる学校

富士見市立富士見特別支援学校

令和4年3月1日(火) 第12号



春がそこまで来ました。



いよいよ3月。11日に行われる卒業式に向けて、本格的に練習が始まりました。この日は、小学部卒業生6名が「児童」から「生徒」になる、中学部卒業生4名が「義務教育を終了する」、高等部卒業生5名が「社会への第1歩を踏み出す」ことをそれぞれ意味する日です。苦労を重ね、献身的にお育ていただいた保護者の皆様、寄り添い、見守っていただいた地域や支援者の皆様、そして、深く関わらせていただいた私ども教職員にとっては、節目となる記念日でもあります。本校に関わる全ての方々にとってかけがえのない日になることを心より願っております。

さて、今年の桜の開花予想は例年通りとのことで、卒業式の彩りには間に合わないようですが、卒業生とご家族の皆様の前途を祝して咲き誇ってくれることと思います。知人の植木職人から伺った桜にまつわるお話を紹介させていただきます。

成長が早く、若いうちから花を咲かせ、花付きも良く、花弁も大きいことから、今や全国に植えられ、最もなじみ深い、桜の代名詞となっている品種がソメイヨシノです。漢字では、「染井吉野」と綴り、江戸時代末期に染井村(今の東京都豊島区)の植木職人が、桜の名所である奈良県吉野の桜に負けないような桜を作りたいと願い、挿し木や接ぎ木を繰り返し、苦労して作り出した品種であることがこの漢字に表れているのだそうです。人の手によって作られた、その歴史もまだ100年余りと浅く、種で増えることができない園芸種の桜がこのソメイヨシノなのです。ソメイヨシノは、折れた枝や枝の切り口から幹を腐らせる菌が侵入しやすく、病気に弱いことから樹齢が60年といわれています。こうしたことから、ソメイヨシノほど、職人泣かせで、技量を試される木はないのだそうです。そこで、ベテランの植木職人は、弟子たちに、子育てに例えて、「我が子を育てるような塩梅(あんばい)で1本の桜の木に向き合え」と諭すそうです。過保護に可愛がり、手を掛けすぎると自らの力で逞しく伸びようとする力が育たない。反対に、手を掛けずにいるとたちまち弱り、病気になってしまうからだそうです。

私は、春、咲き出した枝を見上げるたびにこの植木職人の話を思い出し、卒業生の成長や旅立ちの姿に重ねます。今年も、末永く、15名の卒業生全員が、生まれてきた喜びを実感してくれること、保護者の皆様が我が子の成長を実感してくださること、地域や支援者の皆様、そして私たち教職員が、お子様とご家族の皆様と巡り合えたことに互いに感謝できることを願ってやみません。1本のソメイヨシノにまつわる全ての方が、この木の成長を見守り、毎春の開花を喜びあえるように、この3つのことを大切に大切に紡いでいくことが本校の責務であると考えます。

今後も、保護者や地域の皆様の変わらぬご支援とご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。

校長 阿部 和彦

2月の取り組み ～卒業に向けて～

小学部 6送会に向けて

3月3日(木)は、いよいよ6年生を送る会です。主役となる6年生は、これまでの学習の成果や日常の様子を動画にまとめました。

在校生は、6年生への憧れや感謝の気持ちなどを込めて、各クラス様々な趣向をこらし、ビデオメッセージを作成しています。今から当日が楽しみです。



高等部 巣立ちの会に向けて

3月1日(火)は巣立ちの会です。在校生の実行委員が中心となり、この学校から巣立っていく3年生に「ありがとう」という感謝の気持ちと「頑張ってください」という応援の気持ちを込めて様々な企画を準備しました。卒業生は巣立っていく思いを込め、発表の練習をしたり、当日披露する卒業制作に取り組んだりしていました。



中学部 3送会に向けて

3月2日(水)に3年生を送る会を行います。音楽が大好きな中学部のみんな。当日は森山直太朗の「さくら」の合奏を披露します。これが3年生と一緒に演奏する最後の合奏です。さみしいですが、みんな気合を入れて練習に励んでいます。



卒業式の練習

3月11日(金)の卒業式に向けて、学部ごとの練習や全体練習が行われています。新型コロナウイルス対策で、今年度も在校生のいない中での卒業式となります。練習では、1学年下の後輩たちも卒業生の姿を見学しました。回を重ねるごとに、儀式的な雰囲気にも慣れ、晴れ舞台の日を意識して、頑張っています。

